

## 成城大学に対する相互評価結果

### I 総評

成城大学の大学全体のアドミッション・ポリシーは、入学者に求める条件を学力の3要素に沿って、(AP1)知識・技能、(AP2)思考力・判断力・表現力、(AP3)主体性・多様性・協働力の3つのカテゴリーに分けて、高等学校段階の入学希望者にもわかりやすい表現で定め、入学前に身につけておくべき能力(AP1、AP2)と意欲(AP3)に分けて記述されている。また、入試区分・評価方法別にAP1～3の評価の比重が表形式にまとめられており、入学希望者にとって分かりやすいものとなっている。

大学院全体のアドミッション・ポリシーについても、入学者に求める条件を4つのカテゴリー(知識、思考力・判断力、技能・表現力、主体性・多様性・協働性)に分けて記載し、入試区分・評価方法別にAP1～4の評価の比重が表形式にまとめられている。

各学部のアドミッション・ポリシーについては、受け入れる学生に求める人物像、学習成果(学力の3要素)、学力水準、評価方法が具体的に明記されている。法学部についてはこれらの具体的な内容が記載されていなかったが、すでに学力の3要素に対応した内容に見直しが進められており、改善が見込まれる。

研究科のアドミッション・ポリシーについては、簡潔でわかりやすい記述となっている。

ただし、学部・研究科のアドミッション・ポリシーの形式や表記は統一されていない。この点は、第三期認証評価でも指摘がなされているため、検討が望まれる。

大学全体のアドミッション・ポリシーと各学部のアドミッション・ポリシーの連関については、概ね対応しており、各学部の特徴に合わせたかたちで記述されている。

大学院全体のアドミッション・ポリシーと各研究科のアドミッション・ポリシーの連関についても概ね対応している。

今後も引き続き、教学マネジメントを回していくなかで、3つのポリシーが全体として一貫性のあるものとして策定されているか、「学力の3要素」を念頭に置き、受け入れる学生に求める学習成果がわかりやすいものになっているかという観点から、アドミッション・ポリシーの見直しが行われることを期待する。

### II 概評

① **【共通】**大学全体のアドミッション・ポリシーと学部・研究科のアドミッション・ポリシーは連関しているか。

大学全体のアドミッション・ポリシーと各学部のアドミッション・ポリシーの連関について、概ね対応しており、各学部の特徴に合わせたかたちで記述されている。

法学部のアドミッション・ポリシーについても大学全体のアドミッション・ポリシーに記載された学

力の3要素と関連した内容に見直しがなされている。

大学院全体のアドミッション・ポリシーと各研究科のアドミッション・ポリシーも概ね関連している。

② 【共通】入学希望者にとって分かりやすい内容になっているか。

大学全体及び各学部・研究科のアドミッション・ポリシーは、いずれも平易な文章で表現されており、入学希望者が理解しやすい内容になっている。また、大学全体のアドミッション・ポリシーや一部の研究科のアドミッション・ポリシーにおいて、入試区分ごとにAPI～3をどのような評価方法で評価するのか表形式で示している点は分かりやすく、評価できる。

③ 【AP】受け入れる学生に求める人物像、学習成果(学力の3要素)について具体的に明示されているか。

各学部・研究科のアドミッション・ポリシーについては、求める人物像及び学力の3要素が具体的に明示されている。

ただし、経済学部の「卒業論文を執筆できる能力」は、大学入学前に求める能力として適切なのか検討が望まれる。

④ 【AP】入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法が示されているか。

入学前の学習歴、学力水準が示されている。特に、経済学部のアドミッション・ポリシーは、入学前に学習していることが望ましい学習内容や水準が具体的に記載されており、入学希望者にとって分かりやすい内容となっている。ただし、「主体性・多様性・協働性」について求める水準は学部・研究科とも明確とはいえない。

入学希望者に求める水準等の判定方法については、大学全体のアドミッション・ポリシーや一部の研究科のアドミッション・ポリシーにおいて、入試区分ごとにAPI～3をどのような評価方法で評価するのか比重も含めた表形式で明示されている。

以上